

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・少し良くなりかけたが、新型インフルエンザと天候不順の影響で、例年と比べて観光客が少ない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品、住居余暇部門の来客数が伸びてきている。衣料品は気温の状況により来客数に変化がみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・8月の来客数は前年比105%と伸びている。客単価が前年比で約3.5ポイントのマイナスとなっているが、買上点数の伸びでカバーができており、売上は前年実績を上回るようになってきている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・7月と比較して天候が回復していることが大きい。タスポ効果が一巡した以降も、たばこの売上に大きな減少はみられず、男性客が堅調である。お盆が週末に重なったこともあり、移動中にコンビニを利用する客が増加した。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・エコポイント制度の追い風もあり、薄型テレビや冷蔵庫の販売量が前年を大幅に上回っており、全体の売上を押し上げている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・ハイブリッド車については、納車が新車購入補助制度の対象期間に間に合わないため、販売量に影響が出てきているが、本制度を利用した乗換え需要に動きが出てきている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品の価格が安定していることに加えて、高速道路料金引下げの効果もあり、自動車用燃料の販売量が前年から大幅に増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・総選挙の運動期間が2週間あったにもかかわらず、3か月前と比べて売上が9%ほど増加し、前年を3%ほど上回っている。教育面などに対する支援が打ち出されているためか、政権交代に対する期待感が地元住民の財布のひもを緩めており、地元客が伸びている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・総選挙の影響を心配したが、特に影響はみられず、下旬の売上は順調に推移している。前月に引き続き、月末の客の入りがよく、来客数、売上とも前年を10%上回っている。一方、客単価は横ばいでの推移となっている。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期が以前より短くなっており、それに伴い売上が数パーセント伸びている。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新しい政権への期待感から、客の動き、雰囲気は良くなっている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・今月は比較的安定した天候であったが、大型店、路面店とも夏物バーゲン是不振だった。大型店については、経費削減傾向が強く、バーゲン商戦に対して消極的な面もみられた。今年は、開港150周年記念で多彩なイベントが行われたため、人出が多かったが、家族連れの客は出費を最小限に抑えている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今月中旬、地域の最大イベントが開催され、街頭出店やオープンカフェではそれなりの売上がみられたが、商店街のほとんどの店舗では売上が増加しなかった。飲食店が若干売上を伸ばした程度であり、店舗によっては通常月よりも売上が減少した店もみられた。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・天候が不順であり、寒い夏が続いているため、主力商品であるビールを始めとした飲料品の売行きが悪く、売上の足を引っ張っている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・依然として客の関心が低価格商品にしか向いていない。
百貨店（売場主任）		来客数の動き	・夏物の最終処分セールは天候の好転もあり、7月と違って売行きが良かった。下旬からの秋物の立ち上がりについても、動きが少しみられる。	
百貨店（役員）		お客様の様子	・客の節約志向、儉約志向が一層強まっている。	

スーパー（役員）	単価の動き	・8月の既存店ベースの売上を前年比で比較すると、上旬が1ポイントの低下、お盆期間が10ポイントの上昇、下旬は前年並みで推移しており、8月全体では前年を1～2ポイント上回っている。ここ3～4か月、商品単価が低下し続けているものの、客1人当たりの平均買上点数は増加しており、客単価は前年比101.1%と前年を上回っている。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の減少のみならず、単価の低下がみられる。低単価商品や特売商品への反応が良く、客の消費意欲はまだ減退したままである。	
家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価が低下している。夏物商材の売上は前年を大幅に下回っている。	
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果で、薄型テレビや冷蔵庫は売上が2けたの伸びとなっているが、例年のない冷夏の影響で、エアコンを始めとした季節商材は売上の落ち込みが激しい。全体としてはほぼ横ばいの状態である。	
その他専門店 【医薬品】（経営者）	お客様の様子	・新型インフルエンザの流行などで客が動いているが、必要に迫られてのものであり、必ずしも景気が良いとは言えない。節約するところは節約している。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・総選挙があったため、かなり来客数が落ち込むとみていたが、そうしたこともなく、普段と同様の状態であった。	
タクシー運転手	来客数の動き	・例年、お盆休みの時期はタクシーの利用が極端に少なくなるうえ、今年は総選挙の影響で下旬の人出も少なく、売上が前年を大きく下回った。	
タクシー運転手	販売量の動き	・今月は開港150周年のイベントなどがあったことから、売上が若干伸びて推移していたものの、総選挙が始まってからは売上が減少しており、月を通してみるとほぼ前年並みの売上となった。	
タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず電話での注文数が減少している。	
観光名所（役員）	来客数の動き	・今月は大規模なイベントがあったにもかかわらず、お盆時期を始めとして観光客の入込に今一つ伸びがみられなかった。むしろ天候不順の影響もあり、入込が低迷している。	
観光名所（職員）	来客数の動き	・土日の天候不順に加えて、海外や道外からの観光客の減少により、来客数は3か月前と比べて2%の減少となった。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・百貨店の閉鎖や農作物の不作など、地域を取り巻く環境には不安要素も多いが、ここ2～3か月の来客数は安定しており、前年と同様の状況にある。	
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・住宅、店舗、オフィスビルのいずれも動きが鈍く、全くないに等しい状態にある。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・冷夏に追い打ちをかけるように総選挙が行われるなど、消費に水を差すことばかりが続いている。少しは上向きになってきていた景気も以前の状態に戻っている。
	商店街（代表者）	単価の動き	・今年は夏らしい気温の日が続かなかったため、夏商戦自体が盛り上がらなかったが、それにしても客の価格に対する意識が強く、客単価がかなり低くなっている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・先月と同様に客が他店へと流れており、3か月前と比べて販売量が落ち込んでいる。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・お盆期間については、高速道路料金引下げの影響から人の動きも良く、消費動向は良かったが、15日以降は消費動向が悪くなっている。お金がないためか、買い控えが発生している。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・最近では来客数が減っており、買い方もシビアになってきている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・需要を先取りしたためか、現在の販売量は通常よりも2割ほど減っている。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏休みと開港150周年イベントの効果で宿泊客が増加することを期待したが、不況感が勝り、観光や帰省への意欲を減退させている。更に、総選挙が追い打ちをかける状況となっており、宿泊客は前年を下回っている。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・低価格商品を購入する個人客の動きは比較的堅調だが、本州方面からのツアー客が伸び悩んでいる。また、月末の総選挙を控えて法人客の動きが鈍い。

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人旅行は、海外が前年比106%と順調である一方で、国内が前年比83.5%と低調に推移している。また、新型インフルエンザの影響で法人需要のキャンセルが増加しており、ダメージが大きい。	
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・例年7～8月は客単価の高い時期となるが、今年は3か月前と比較しても客単価がかなり低下している。取扱人員と取扱額を前年比で比較すると、国内旅行で6ポイント、海外旅行で9ポイントのかい離がみられ、その差が拡大している。	
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・総選挙の影響で旅行全体の動きが鈍かった。また、組織や法人の団体旅行についても、総選挙前は決定権を持つ方の余裕がなく、商談が進展しなかった。	
	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・競争相手が利益度外視の営業攻勢をかけてきており、それに対抗すると自社の利益にも影響が出てしまうケースが増えている。	
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・乗客数、客単価ともに落ち込んでいる。前年のお盆と比較して、商店街やショッピングセンターの人も少ない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・総選挙の始まりとともに、夜間の酔客が激減している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・市場がやや落ち着きを取り戻しており、買い控えに改善傾向がみられる。品質が良く、価格がリーズナブルな商品であれば、市場が開かれつつある。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・景気浮揚を狙った補正予算による耐震診断や医療施設耐震化の業務が大量に発注されている。報酬は少ないが、関係スタッフは多忙を極めている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の様子をみると、政府の景気刺激策の恩恵を受けている企業が多いのか、春先よりも受注件数が増加しているとの話を聞く機会が多い。物流関係でも、以前と比べて流通量が増加しているとの話を聞く。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前の受注量が前年比でほぼ横ばいであったのに対して、今月の受注量は前年比でプラスとなっている。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・全国的な天候不順に伴う不作の影響で、農産物の価格高騰がみられるため、水産加工品を始めとした加工食品の需要が増加しており、引き続き好調に推移している。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・ここ3か月間、仕事量はそれなりにあるが、単価が低く、全体としては変わらない。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・依然として、受注量が伸びてこない。また、価格破壊も進んでいる。
		金融業（企画担当）	それ以外	・景気対策の効果で土木建設業や家電量販店は持ち直している。自動車関連などの製造業の生産もやや上向いている。しかし、長雨、低温が続いたことで、農作物の生育が遅れているほか、夏物商戦も低迷している。また、新型インフルエンザの発生により、観光・レジャー関連などの個人消費に悪影響が生じている。
		司法書士	取引先の様子	・取引先の様子をみると、建物の建築や土地の取引が少なく、不動産関係の景気が悪化している。
		司法書士	取引先の様子	・依然として不動産の取引が少ないため、不動産仲介としては非常に苦しい状況にある。また、住宅関連会社では、仕事を受注しても、相手先の倒産などにより支払を受けられないことが増えている。仕事を選別したくても仕事量自体が少ないため、難しい状況にある。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・公共工事の減少、地元信金の貸し渋りがみられ、相変わらず厳しい状況にある。

	やや悪くなっている	輸送業（営業担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製紙業界の低迷が依然として続いている。農産物も天候不順により、米、小麦、ばれいしょ、玉ねぎ、牧草、夏野菜と前年を大きく下回っている。砂糖、でん粉の生産量も現段階では前年を下回る見込みとなっており、営業倉庫にとっては、厳しい状況にある。秋さけ漁獲も過去20年間で最低の漁獲量が見込まれている。まずまずの生産量が見込まれるのは、生乳が挙げられる程度であり、輸送業者にとっては非常に厳しい環境にある。</li> </ul>
	悪くなっている	食品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3か月前と比較して、受注量、販売量が約1割減少している。</li> </ul>
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6月の求人数は前年比でマイナス35%程度となっていたが、7月がマイナス25%、8月がマイナス20%と底を打ち、改善傾向を示している。多くの業種で同様の傾向を示しており、建設業はマイナス10%まで回復してきている。ただし、衣料品やスーパーはマイナス40%といまだに低調である。</li> </ul>
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、農産物加工関係の派遣求人が増える時期であり、今年も同業種を軸に比較的安定して推移している。募集広告売上も前年比93%で落ち着いている。</li> </ul>
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府の雇用対策の効果もあり、土木・農業関連の求人は微増しているが、季節要因による臨時採用が多く、まだ常用雇用には結び付いていない。</li> </ul>
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の有効求人倍率は0.29倍であり、前年から0.09ポイント低下し、9か月連続で前年を下回っている。一方、新規求職者の増加傾向は鈍化している。</li> </ul>
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月間有効求人数は前年から15.4%減少し、33か月連続で前年を下回った。新規求人数は前年から6.1%減少し、17か月連続で前年を下回った。</li> </ul>
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の新規求人数が前年を20.0%下回った。また、7月の有効求人倍率は0.29倍となっており、25か月連続で前年を下回った。</li> </ul>
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の新規求人数は前年を5.8%下回っており、新規求職者数は前年を5.1%下回った。月間有効求人倍率は0.34倍となっており前年を0.07ポイント下回っている。</li> </ul>
やや悪くなっている		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の採用意欲が弱まっている。当社では人材紹介事業を行政から受託し、求人開拓のため、企業にアプローチを行っているが、求人数が前年よりも減少している。人材派遣事業においても、事務系では派遣契約満了に伴い契約を継続しない派遣先が少しずつ増えてきている。例年7月が閑散期となる販売関連では前年以上にニーズが冷え込んでいる。</li> </ul>
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、秋採用や通年採用を行っている企業において、今年は募集を行わないとする企業が多数を占めている。業界別にみると、採用に積極的であったIT業界やフード業界での慎重さが際立っている。また、学内では2011年卒業生の就職ガイダンスを開始しているが、厳しい採用計画を示す企業も出始めており、全体の採用数が減少している。</li> </ul>
	悪くなっている	-	-	-